<table>
<tr><td rowspan="2">No</td><td rowspan="2">提　案　名</td><td colspan="3">提案団体名</td></tr>
<tr><td colspan="2">代表者氏名</td><td>所　属</td></tr>
<tr><td rowspan="2">14</td><td rowspan="2">10 年後、住み続けたいと思うまちの未来像
～多世代にわたるコミュニティ</td><td colspan="3">社会福祉専攻 2 年生チーム</td></tr>
<tr><td colspan="2">齋藤　嗣士</td><td>宇都宮短期大学　人間福祉学科</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>指導教官
氏　　名</td><td>小野　篤司</td></tr>
</table>

1　提案の要旨

市の課題である「人口減少時代の豊かな宇都宮をつくろう！」を受けて、私たちは「10 年後、住み続けたいと思うまちの未来像」を提案テーマに選んだ。

提案の目標

住み続けるために必要なこととして、私たちは「緩やかな・しなやかなコミュニティの必要性」を掲げた。確かに、利便性やハード面の充実も必要であるが、その一方で「地域づくりは人づくり」であるという認識から、地域住民が自らの地域を主体的に考え、かつ住民の相互理解によって、緩やかなでしなやかな関係が築かれ活動が充実し、住み続けるために必要なことを自分たちの問題として考え、実現していくことができれば地域に愛着が生まれ、住み続けたいと思う住民が増えていくのではないかと考えた。

↓

現状の分析と課題

そのために、まずは私たち自身がまちづくりに対する興味関心を深めるために、いくつかのテーマを設定して、チーム内でグループディスカッションやブレーンストーミングを行うことからスタートした。ディスカッションやブレーンストーミングをした結果、ハードの側面とソフトの側面の意見が出たが、目標に掲げた「地域づくりは人づくり」を実現するためには人間関係に着目すべきであるとの結論に至った。また他の世代の人の意見も参考にするためにアンケートを行った。その結果は同様にハードの側面とソフトの側面の意見がみられた。こうした結果を踏まえて、具体的な緩やかな・しなやかな人間関係を構築するための施策を考えた。

↓

施策事業の提案

具体的には、小学校の学区内程度の範囲で、そこに住む地域住民が地元の小学生に対して、職業や趣味、特技などを活かして一緒に体験する活動を行う。この体験により、世代間交流が生まれ、地域文化の継承も考えられる。また、地域住民同士の相互理解も深まるのではないだろうか。そして、この活動を支えるコミュニティワーカーの必要性も提案したい。一地域だけにとどまらず、市全体に波及していけば、豊かな宇都宮を実現できるのではないだろうか。

２　提案の目標

私たちの提案としては、地域の人たちとの関係に注目し若者から高齢者までの多世代の人たちが「10 年後、住み続けたいと思うまち」を実現するために必要な施策として、住民が主体的に参加できる環境づくりとコミュニティワーカーの必要性を提案する。具体的には、地域住民が職業や趣味、特技を活かして地元の小学校で得意なことや大切さを伝える機会をつくることで、１．世代間交流が生まれる。こうした活動を通して自然とあいさつができる環境や地域住民相互の理解が深まることにより地域が活性化されると考えられる。２．文化継承が行われる。同様にこれまで地域で培ってきた様々な伝統や技術などの再発見にもつながり改めて地域を見直す機会にもなる。３．こうした活動によって住民同士で地域を主体的に考え、緩やかな・しなやかな関係が築かれ、さらに新しい活動が生まれてくるのではないだろうか。最終的にはこれらの活動が継続することで地域に愛着が生まれ、住み続けたいと思う住民が増えていくのではないだろうか。他の地域との交流も生まれ市全体に波及することで人口減少の歯止めになるのではないか（この点はコミュニティワーカーの役割の一つ)。

３　現状の分析と課題

「人口減少時代における課題」をテーマにグループディスカッション（6 月 18 日）

人口減少時代における課題を検討するにあたり、行政の役割と住民の役割を 2 班に分かれてディスカッションをした。行政の役割としては、人口減少時代に入っても、住民がよりよい生活を送ることができるために、どんな役割があるか、どんな取り組みが必要か話し合った結果、「児童手当の見直し」「就職先の確保」「交通機関の整備」「観光地の PR」「バリアフリーの推進」「公営住宅の整備」など子育て、若者の雇用確保・安定、だれもが住みやすいまちづくりに関する意見が出た。行政との協働が重要となる住民の役割、住民ができることはどんなことがあるか話し合い、「子どもを産むこと」「意識を高く持つ」「登下校時の見守り」「小学校のころから日本のことを知る」「交流の場をつくる」「見守りネットワークをつくる」「住みやすい街づくりをすることで、人口流失を止める」「農村地域での跡継ぎ対策として、若者を都心部から呼び、農業体験とともに高齢者とふれあい、地方の良さを知ってもらう」など、地域で子育てをしていくこと、住民の意識づけに関する方法、住民の定着化、住民がつながりを持てる居場所に関する意見が出た。以上の話し合いを踏まえて、「現在、２０歳の自分たちが、１０年後、住み続けたいと思うまちの未来像」について考えて提案することにした。その際、「宇都宮中心地+郊外にも着目する」「地域住民がそれぞれ得意なもの持ち寄って生まれるコミュニティ」「自分たちの税金の使い道を考えるようなしくみ」などを検討し、理想の生活のために必要なもの、地域に定着するために必要不可欠なものを提案していきたいと考えた。

「10 年後住み続けていたいまち」についてのグループディスカッション（6 月 26 日・7 月 3 日）

2 日間にわたり、12 名で「10 年後住み続けていたいまち」についてグループディスカッションを行った。2 班に分かれ、メンバーが「10 年後住み続けたいまち」に関するキーワードを書いたタックメモを持ち寄り、模造紙にグル―ピングをしながら話をした。

１つの班は、大項目に飲食・自然・公園・地域・娯楽・子ども・学校・仕事・医療・犯罪・町の雰囲気・交通・動物があげられた。もう１つの班は、自然・お店・娯楽・教育・仕事・医療機関・交通・家族・動物・Wi-Fi があげられた。自然・娯楽・学校(教育)・交通・動物は、どちらの班にも共通しており、生活に密着していることが話合いの中心となった。その他、住民同士の関係についても話がすすみ、「人付き合いが楽なほうがいい」「あまり強い関係はつらい」という意見もでていた。

その後、メンバーそれぞれが模造紙を見ながら考えたことを文章にしてみた。上記にあがった

ような住み続けたいまちに必要なものを再確認したという内容、住民がよい関係を築くことや住民の意識を高めることが大切だと感じたという内容が多くを占めた。その他、住民へのアンケート・インタビュー、とにかく自らの考えや意見を言ってみる、具体的な策を考えるなど、自分たちの視点からまちづくりに必要と思われることに関する記述もみられた。

「これからの宇都宮はどうなる？」をテーマにグループディスカッション（7 月 2 日）

うつのみや市政研究センターに依頼した出前講座において、前半は宇都宮市の現状と総合計画の概要について説明してもらった。後半は、2 班に分かれて、「これからの宇都宮はどうなる？～こうなったらいやだ～」というブラックシナリオをテーマにディスカッションを行った。テーマを考えるにあたり、あらかじめ指定された 5 つの項目（高齢化、公共交通、買い物・にぎわい、家族・地域、自然・その他）についてグループごとに話し合い、発表した。

高齢化について医療・介護施設の不足、労働者の減少、支援・介護の負担が増加するなど、公共交通については電車やバス路線の減少および運賃の値上げなど、買い物・にぎわいについてはシャッター街の増加、働く場所がなくなる、祭りなどの行事の減少など、自然・その他については自然の荒廃、水質の悪化、野生動物の増加、特産物の減少、郷土料理の衰退、歴史・文化・観光産業の衰退、県外への人口流失が増加、少子化進行、廃校、幼稚園・保育園等の減少、消防や警察の衰退、犯罪の増加など、家族・地域については、地域住民の交流が減少、近所づきあいの減少、会話の減少、孤独死の増加、近所の住民が少なくなるなどの多くの意見があった。
2 班とも、交通アクセスの不便化や雇用場所の減少など、地域で生活する上で欠かせない「目に見えるもの」のほか、人と人とのつながりがなくなることに不安を感じる意見が共通して多く出ていた。

「10 年後住み続けたいまち」についての座談会（7 月 30 日・31 日）

2 日間にわたり、「10 年後住み続けたいまち」について自由な発想で話し合った。

第 1 回目の座談会では、ほとんどのメンバーが 20 歳で 10 年後は仕事や子育てをしている可能性が高いこともあり、「仕事や子育てができるまち」ということが話合いの中心となった。必要な事項として、公共施設・自然環境・エネルギー資源・娯楽・仕事・子ども・地域・交通・医療機関などがあげられた。また、世帯収入に関する新聞記事を読んだメンバーの話から、話題の中心が子育て世帯の収入に移った。「世帯年収 500 万で子どもを育てながら生活するなら」ということなどを想像しながら話し合った。

第 2 回目の座談会では、「様々な世代が地域の活動に参加するためには」ということが話し合いの中心となった。自分が住む自治会について話をしたことで、「人と人を結びつけるネットワーク」の必要性を感じた。そこで、そのネットワークのきっかけとして、「暑い時期はみんなで涼める、つまりクールシェアの場」「自分が得意なことを地域に提供できる場」「自分の持つ技能を提供するともらえるポイント制度」「まずは同世代が交流できる機会」「子育て祭り(ベビーカー行列など)」「地域の伝統的な祭りを復活・維持させる取り組み」などがあげられた。しかし、実際それらに足を運んだり、参加することを想像すると、「一歩踏み出すまでが大変なのでは」という声もあがった。ほとんどのメンバーが「あまりに強い関係や強制的なつながりは避けたい」という気持ちを持っている様子であった。「適度な距離感を保ち、しなやかなつながりでコミュニティができないだろうか」という考えから、「ゆるコミュで豊かな宇都宮をつくろう」という言葉がうかび、座談会は締めくくられた。

「宇都宮市の福祉政策について」9 月 12 日

宇都宮市に出前講座を依頼し、「第 3 次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」について講義を受けた。計画の基本施策のうち、私たちが提案する「10 年後住み続けたいと思うまちの未来像～多世代にわたるコミュニティ」と関連する「ふくしのこころの醸成と交流活動の促進」や「福祉に関する人材の育成と福祉教育の推進」「社会参加の促進」「共に支えあう地

域づくり」などの施策について、宇都宮市社会福祉協議会や市役所の各課が担当となり取り組んでいることが分かった。目標の達成状況などを参考にして具体的な取り組みを検討していくことが今後の課題である。

「中間打ち合わせ」9 月 17 日

中間報告では、地域の人たちとのかかわりについて、一人ひとり煩わしいと思う意見と、安心感がある意見など、感じ方が違う中で、いかに多くの人たちが納得のいく地域を作っていくかを検討していくことをねらいとし、提案名を「10 年後、住み続けたいと思うまちの未来像～理想の生活のために必要なもの、地域に定着するために必要不可欠なもの～」とした。打ち合わせでは、参加した学生メンバーから、「成長につれて近所とのかかわりが減ってきた。将来が不安」「関わりはあまりないが、困らない」「住民が減りかかわりが減ってきた」など自分たちが実際に地域で生活するなかで感じているコミュニティへの意識や実体験から、濃厚過ぎずかつ希薄になり過ぎない関係づくりとしてしなやかな人間関係、ゆるいコミュニティの必要性を説明した。「ゆるいコミュニティ」という絶妙なさじ加減をどうしたらよいのか？交流はどうやって作るのか？ディスカッションをした。参加した学生メンバーは、「高齢者と若者が触れ合う機会をつくる」「小学校の時から、自宅や施設を訪問する機会をつくる」「教育機関との連携」などの意見が出た。地域に関心のない住民にどうやって働きかけるのか？だれがやるのか？どこでやるのか？などが課題としてあがった。また、本学の大学祭にて、まちづくり提案の中間発表を展示し、参加者にアンケートの協力を求め意見を集めることを検討した。中間打ち合わせを経て、学生メンバー全員で話し合った結果、「10 年後住み続けたいと思うまちの未来像～多世代にわたるコミュニティ」とサブタイトルを変更した。

「大学祭で実施するアンケート項目の検討」11 月 13 日

これまでのグループディスカッションを踏まえて、ゆるやかなコミュニティをどうつくるのか検討した。住民同士を無理に結び付けることはできないため、やりたい人が集まり、参加する中で広がっていく仕組みを話し合った。その際、自由度が高く強制しない、活動が限定されない、参加が自然に増えていくことが望ましいと考えた。場所は、車ではなく、徒歩でいくことが出来る距離を重視した（行く途中でいろんな人と顔を合わせることができる）結果、小学校を活用してはどうかと考えた。内容としては、たとえば、地域住民が地元の小学生に伝えたいこと、自分な得意なことなどを課外授業的に行ってはどうかと考えた。講師になる方も参加する小学生も参加を通して地域に関心をもち住民同士がつながるきっかけになると考えた。大学祭で提案内容を展示しアンケート調査を実施するため、パワーポイントにまとめた。

「アンケートの集計・分析」11 月 20 日、21 日

グループディスカッションや座談会を通して、「住み続けたいまちづくりに必要なこと」についてチーム内で意見を集めてきたが、多世代の方々からの意見を聞きたいということで、アンケート調査を行った。

ただし、時間的・費用的な点を考慮して、大学祭（11 月 15 日・16 日）に参加いただいた方にアンケートの協力をお願いすることにした。両日、市のまちづくり提案に応募している旨のパネル展示を行い、個別に協力をお願いした。アンケートの項目は、性別、年齢、職業、居住形態、人間関係、住み続けたいまちづくりに必要なことの６項目を設定した。このアンケートは、宇都宮市民を直接対象にしたものではなく、大学祭に参加いただいた方を対象にしたので、いわば予備的な調査の位置づけになる。

以下はアンケートの集計結果である。

Q1　性別		
男	16	38.1%
女	26	61.9%
	42	

Q2　年齢		
10代	5	11.9%
20代	11	26.2%
30代	3	7.1%
40代	5	11.9%
50代	8	19.0%
60代	7	16.7%
70代	1	2.4%
80以上	2	4.8%
	42	

Q3　職業		
会社員	7	16.7%
学生・生徒	10	23.8%
教員・講師	4	9.5%
介護士・支援員・施設職員	5	11.9%
主婦	7	16.7%
公務員	1	2.4%
無職	4	9.5%
パート・アルバイト	2	4.8%
無記述	2	4.8%
	42	

Q4　居住形態		
単身世帯	3	7.1%
定位・核家族	13	31.0%
生殖・核家族	12	28.6%
定位・二世帯	3	7.1%
生殖・二世帯	9	21.4%
定位・三世帯	0	0.0%
生殖・三世帯	0	0.0%
その他	2	4.8%
	42	

Q5　人間関係		
おおむね良好	33	78.6%
わずらわしく感じる	4	9.5%
希薄に感じる	5	11.9%
とくに関心がない	0	0.0%
	42	

※「定位・核家族」は自分と親と住んでいる、「生殖・核家族」は自分たち夫婦と子どもと住んでいる、「定位・二世帯」は自分と親と祖父母と住んでいる、「生殖・二世帯」は自分たち夫婦と子どもと親と住んでいる、にしたがって分類した

Q6　まちづくりに必要なこと

治安をよくする。
輪
バリアフリーとさまざまな人に合わせた環境整備。住民同士のかかわり合い。
雇用。
税金を下げてほしい。休暇がほしい。
近隣の人とのつながり，触れ合い→地域行事への参加，地域活動（消防団等）の参加。声をかける，気にかける，挨拶する→住みやすい地域になる
ガソリンが安くなってほしい。
LRT不要。
人間関係が良好なところ。ゴミが道に落ちていない。
近所の人と年齢関係なく仲良くすること。
すぐ会えるまちづくり。家族が一緒に生活できること。
きれいなまち。
子どもと若者の交流の場をもうけてほしい。若者が地域のよさを体験する場を設けてほしい。
みんな仲良く
人間関係の良好な生活をするためにコミュニケーションが大切である。
図書館を充実させること
すれちがいに挨拶ができるフレンドリーなまち。
子どもやお年寄りにも住み良い便利で優しいまち
高齢者への福祉の充実したまちに住めたら嬉しい。
人と人がつながる地域性
医療・福祉が整備されている。バリアフリーが整備されている。暮らしやすい設備が整っている。近所の人や人間関係のよいこと。地域行事が充実している。
活気のあるまち。福祉の充実だけでは住めない。若い方に好かれるまち。
安心・安全なまち。健康的なまち。福祉・医療が整備されたまち。自然環境が良いまち。

バスが通っていれば便利。
不審者・変質者のいないまち。ゴミのないきれいなまち。地域みんなと仲良く協力できる人の多いまち。
地域の人々と交流ができる広場やテーマパーク等充実したところ。医療機関や交通機関がしっかりしたところ。
できるだけ緑が多い方がよい。まちのなかでも子どもが遊べる場所があるとよい。
時間があわない人と折り合いがつくまち。
バリアフリー
コンパクトで自由な交通機関があると便利
輪を多く取れば地域に助け合える
交通の便，買い物，医療など，車を運転できなくなった時はどのような生活ができるか，今から気になっている。
便利なまちにしてほしい。
歩いていけるスーパーがほしい。
近所の人たちと仲良くし朝夕の挨拶を心がけるようにする
交通・医療，日常の買い物など，身近かにあると便利
近所，家族と仲良し。犯罪が少ない。
大学から鶴田駅までのバスがあるといい。
誰とでもまずは挨拶ができるまち。いざというときに助け合える関係。

このアンケート結果から見えてくるものを列挙してみると、比較的多かった 20 代と 50・60 代の「まちづくりに必要なこと」の意見を比べると、20 代は、「子どもと若者の交流の場をもうけてほしい。若者が地域のよさを体験する場を設けてほしい。バスが通っていれば便利。みんな仲良く。不審者・変質者のいないまち。ゴミのないきれいなまち。地域みんなと仲良く協力できる人の多いまち。バリアフリーとさまざまな人に合わせた環境整備。住民同士のかかわり合い。輪。治安をよくする。地域の人々と交流ができる広場やテーマパーク等充実したところ。医療機関や交通機関がしっかりしたところ。人間関係の良好な生活をするためにコミュニケーションが大切である。図書館を充実させること。」など人間関係に言及したものがみられる一方で、医療機関や交通機関に対する意見もあった。50・60 代では、「時間があわない人と折り合いがつくまち。バリアフリー。LRT 不要。安心・安全なまち。健康的なまち。福祉・医療が整備されたまち。自然環境が良いまち。高齢者への福祉の充実したまちに住めたら嬉しい。便利なまちにしてほしい。コンパクトで自由な交通機関があると便利。大学から鶴田駅までのバスがあるといい。誰とでもまずは挨拶ができるまち。いざというときに助け合える関係。交通の便，買い物，医療など，車を運転できなくなった時はどのような生活ができるか，今から気になっている。人と人がつながる地域性。交通・医療，日常の買い物など，身近にあると便利。活気のあるまち。福祉の充実だけでは住めない。若い方に好かれるまち。」など、利便性に言及した意見や福祉の充実を求める意見などがあった。

ちなみに、人間関係の項目では、20 代の 11 人のうち、「良好」と答えた人は 6 人、「わずらわしい」と答えた人は 1 人、「希薄」と答えた人は 4 人、「無関心」と答えた人は 0 人であった。50・60 代では、15 人のうち、「良好」と答えた人は 13 人、「わずらわしい」と答えた人は 2 人、「希薄」と答えた人は 0 人、「無関心」と答えた人は 0 人であった。

私たちがグループディスカッションで人間関係、地域の人たちとの関係について話したこととして出た意見は、「高校生・大学生になるにつれて近所との関わりが減ってきた」という意見が多かった。大学祭でアンケートを取ることになった時も人間関係の項目で希薄に感じる人が多いのではないだろうかという予想をしていたが、アンケートを集計した結果、42 人中 33 人が「おおむね良好と感じる」と答えていたのを見て驚いた。しかし、20 代には若干であるがその傾向を見ることができる。それに加え、自由記述のまちづくりに必要なことの項目では、医療・交通機関の充実などのハード面に対する意見もあった。しかし、住民同士の関わり合いや人と人とのつながり、助け合える関係などソフト面での意見もあがっていた。少なくとも地域の人たちとの関わりの必要性を感じていると考えられる。それでは、地域の人たちとの関わりをどのようにつくっていったらよいのだろうか。以前、チームの話し合いの中では、小学生時代に高齢者から昔の遊びを教えてもらったことを今でも覚えているという意見もあった。同様な体験を指摘する学生も多数おり、小学生時代の体験が貴重なものになっている可能性があるので、これから地域を担っていく子どもたちを対象にした地域の活動は意味のあるものになるのではないかと考えた。

４　施策事業の提案

・住民が主体的に参加できる環境づくり

地域住民が職業や趣味、特技を活かして小学校で得意なことや大切さを伝える機会をつくる。

いくつかの例を挙げると、大工さんなら工作体験を通して、銀行員ならお金の大切さを伝えるなどして、講師として子どもたちの前で話すことにより、または一緒に体験することによって、いろいろな職業に触れ、結果として世代間交流が生まれる。こうした体験を繰り返すことでお互いに顔見知りになり、街中であいさつの出来る関係がうまれる。

また、地元の郷土料理をみんなで作る料理教室を開くことにより文化継承の意味と一緒に食べることにより世代を超えて会話が弾み、自分で料理することや大勢で食事を囲む楽しさを知ることが出来るのではないか。

たとえば、栃木県でプロバスケットチームの栃木ブレックスの活動が参考になるし、ＮＨＫの「ようこそ先輩」などの企画も参考になると思われる。ちなみにＨＰでは次のように紹介されている。

栃木ブレックスキッズモチベーションプロジェクトとは？

プロ選手やチアリーダーといった「プロフェッショナル」に子供達が接し、プロの「本気度合い」「経験」「夢」「ホンモノの技」などに触れることにより、子供達のやる気＝モチベーションを高めることや情操教育を目的としたプログラムです。子供達が比較的興味を持ちやすいスポーツやダンスという分野ですので、子供達にとっても理解しやすい内容となっております。プログラム例は下記の通りとなっておりますが、ご要望に応じて組み合わせるなどの対応も可能ですので、キッズモチベーション・プロジェクトにご興味をお持ちの先生方は弊社までお問い合わせいただけましたら幸いです。

http://www.linktochigibrex.com/community/kidsmotivation/

ようこそ先輩

さまざまなジャンルの第一線で活躍する著名人が、ふるさとの母校を訪ね、後輩たちのためにとっておきの授業を行います。授業は通常２日間、リハーサルなしの真剣勝負です。内容や仕掛けは、先輩によって実に多彩。人生で得たこと、創造の秘密、専門分野の面白さなどを、独自の方法で解き明かします。そんな先輩の思いがこもった授業を、子どもたちはどう受け止めるのか？そこには毎回、思いがけない発見と感動があります。

１９９８年に番組がスタートして以来、これまでに５００人を越える先輩が、母校の子どもたちに熱いメッセージを送ってきました。

http://www.nhk.or.jp/kagaijugyou/info.html

地域住民が自主的に参加し始めるには時間がかかるとは思うがコミュニティワーカーや民生委員、教員等、住民と関わりのある社会資源を活用し継続的に実施していくことを目指していきたいと思っている。

この経験により、現在小学生・中学生が 10 年後に成人になったとき、同じような活動を行いたいと思う人が増えていたら、とても素晴らしい地域になっているのではないのだろうか。

・コミュニティワーカーの必要性

地域の生活問題の解決や福祉コミュニティの形成などを目的としていくには、もちろんコミュニティワーカーが必要になっていくのだが、かといってコミュニティワーカーが主体となって行っていくだけではこういった地域ケアは長続きしないのである。あくまでもコミュニティワーカーは、主役を支える黒子であって、主役の住民よりも前にでて指示を出してはいけないのである。

では、どのように主役となる住民を支えていくのかと考えたときに、まずコミュニティワーカーの在り方を整理していかなくてはならないと思う。コミュニティワーカーとは、住民参加による地域組織化活動や地域間での連絡・調整、住民への福祉教育など地域援助を実践する専門職である。活動内容や場面により、ファシリテーターやコーディネーター、プランナー、マネージャー、アドボゲーターとしての役割が求められている。したがって、住民の活動を促すとともに、小学校との調整や、他の地域との連携を視野に入れた役割を担わなければ、活動そのものも減少していくのではないか。

そのためには、社会福祉協議会や地域包括支援センターなどの機関とも連携をとっていく必要があるのではないのかと思っている。

現在、宇都宮市にある小学校および児童数は、以下の通りである。

http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shogai_gakushu/shochugattukou/001984.html

	学校名	クラス	児童数:
1	中央	学級数:通常学級8、特別支援学級2	211
2	東	学級数:通常学級12	261
3	西	学級数:通常学級6、特別支援学級1	181
4	簗瀬	学級数:通常学級14、特別支援学級2	468
5	西原	学級数:通常学級12、特別支援学級1	304
6	戸祭	学級数:通常学級21、特別支援学級2	721
7	今泉	学級数:通常学級19、特別支援学級3	620
8	昭和	学級数:通常学級12、特別支援学級1	296
9	陽南	学級数:通常学級17、特別支援学級2	504
10	桜	学級数:通常学級12、特別支援学級4	370
11	錦	学級数:通常学級13、特別支援学級1	378
12	細谷	学級数:通常学級13、特別支援学級4	444
13	峰	学級数:通常学級15、特別支援学級1	465
14	富士見	学級数:通常学級20、特別支援学級3	681
15	泉が丘	学級数:通常学級27、特別支援学級3	933
16	石井	学級数:通常学級22、特別支援学級3	714
17	緑が丘	学級数:通常学級16、特別支援学級2	496
18	宮の原	学級数:通常学級12、特別支援学級2	360
19	御幸	学級数:通常学級14、特別支援学級2	440
20	明保	学級数:通常学級18、特別支援学級2	535
21	宝木	学級数:通常学級23、特別支援学級2	749
22	城東	学級数:通常学級13、特別支援学級3	431
23	平石中央	学級数:通常学級6	74
24	平石北	学級数:通常学級8、特別支援学級1	191
25	清原中央	学級数:通常学級19、特別支援学級1	579
26	清原南	学級数:通常学級15、特別支援学級1	445
27	清原北	学級数:通常学級6	119
28	清原東	学級数:通常学級13、特別支援学級2	400
29	横川中央	学級数:通常学級13、特別支援学級2	391
30	横川東	学級数:通常学級26、特別支援学級2	889
31	横川西	学級数:通常学級18、特別支援学級2	549
32	瑞穂野北	学級数:通常学級6、特別支援学級1	133
33	瑞穂野南	学級数:通常学級6	144
34	豊郷中央	学級数:通常学級21、特別支援学級2	728
35	豊郷南	学級数:通常学級18、特別支援学級3	637
36	豊郷北	学級数:通常学級7、特別支援学級1	206
37	国本中央	学級数:通常学級13	409
38	国本西	学級数:通常学級6、特別支援学級1	69
39	城山中央	学級数:通常学級10、特別支援学級2	253
40	城山西	学級数:通常学級6	94
41	城山東	学級数:通常学級7、特別支援学級2	175
42	富屋	学級数:通常学級11、特別支援学級2	281
43	篠井	学級数:通常学級6、特別支援学級1	128
44	姿川中央	学級数:通常学級12、特別支援学級1	338
45	姿川第一	学級数:通常学級25、特別支援学級2	933
46	姿川第二	学級数:通常学級21、特別支援学級1	680
47	雀宮中央	学級数:通常学級18、特別支援学級3	592
48	雀宮東	学級数:通常学級7	214
49	雀宮南	学級数:通常学級15、特別支援学級2	456
50	陽東	学級数:通常学級20、特別支援学級3	638
51	御幸が原	学級数:通常学級20、特別支援学級3	657
52	五代	学級数:通常学級22、特別支援学級2	762
53	陽光	学級数:通常学級12	345
54	瑞穂台	学級数:通常学級15、特別支援学級2	493
55	晃宝	学級数:通常学級12、特別支援学級4	370
56	新田	学級数:通常学級16、特別支援学級1	529
57	海道	学級数:通常学級7	198
58	西が岡	学級数:通常学級12、特別支援学級2	361
59	上戸祭	学級数:通常学級17、特別支援学級2	518
60	上河内東	学級数:通常学級6、特別支援学級1	171
61	上河内西	学級数:通常学級6	131
62	上河内中央	学級数:通常学級7、特別支援学級1	208
63	岡本	学級数:通常学級12、特別支援学級2	289
64	白沢	学級数:通常学級11、特別支援学級1	281
65	田原	学級数:通常学級10、特別支援学級2	255
66	岡本西	学級数:通常学級15、特別支援学級3	474
67	岡本北	学級数:通常学級14、特別支援学級1	430
68	田原西	学級数:通常学級12、特別支援学級1	339
			28,118